



1864-2014 佐竹音次郎生誕150年記念



知っていますか？

佐竹音次郎を

四万十市竹島出身・郷土の偉人 佐竹音次郎ものがたり



四万十市竹島遠景

どこの地域にも立派な生き方をした人がいます。
四万十市にもたくさん立派な人がいます。その中の
ひとり、竹島生まれの人物を紹介しましょう。



中村から下田港へいく途中、竹島の入り口の道路横(①)に、竹島小学校の
児童が作った佐竹音次郎生誕の地と記された看板が立っています(②)。また、そ
こから75メートルほど離れた宮村さんの家の庭には佐竹音次郎の生家と書かれた
立派な記念碑も建てられています(③)。

佐竹音次郎(④)とは、どんな人物なのでしょうか？



さ た け お と じ ろ う い ま ね ん ま え み や む ら け よ ん な ん
佐竹音次郎は今から150年前に宮村家の四男として
う さい と き な か む ら さ た け け
生まれ、7歳の時に中村の佐竹家にもらわれていきました。



しばらくして佐竹の父母が別れること

になり、音次郎はつらく悲しい日々をおくったそうです。こうした少年
じ だ い け い け ん ち い こ だ い じ ひ と お も
時代の経験から、小さい子どもを大事にできる人になりたいと思うよ
うになります。



13歳の時、かわいそうな音次郎を見かねた実父母は、
が っ こ う い け っ こ う た け し ま よ さい
学校に行かせてあげるからと竹島へ呼びもどしました。6歳も
とし した こ お な し ょ う ぐ ね ん せ い
年下の子どもたちと同じ小学1年生となったのですが、勉強
することができるとで楽しい日々をおくりました。



ところが15歳の時、そろそろ農業をおぼえさせなくてはならないと
かん が ち ち お と じ ろ う が っ こ う い お と じ ろ う
考えた父は、音次郎が学校へ行くことをやめさせました。音次郎は
だ い す べ ん き ょ う かな から だ よ わ
大好きな勉強ができなくなったことで悲しみ、体も弱っていきました。



悩んだ末に、神様に教えてもらうしかないと考え、竹島神社(⑤)
に お 参 り に 行 き ま し た 。 3 日 間 お 参 り し た 夜 、 「 神 様 が 入 っ て い る と
い う 扉 を 開 け て み る と 、 中 に は 何 も 入 っ て い な い 。 」 と い う 夢 を み ま し
た 。 ど う い う こ と だ ろ う と 考 え た 結 果 、 「 他 人 を 頼 み に し て は い け な い 。
し っ か り と 勉 強 し て 自 分 の 力 で 自 分 の 道 を み つ け よ 。 神 様 は そ う 教
え て い る の だ 。 」 と さ と り ま し た 。



四万十市の歴史を書いた『中村市史』と
いう本を見ると、佐竹音次郎についてくわ
しく書かれています。

⇒ふろく「さたけ・おとじろう
『中村市史』より」





18歳の時、弱っていく音次郎を見て、父は農業を教えることをあきらめ、勉強することを許しました。喜んだ音次郎は勉強に精をだし、小学校の先生として地元の小学校で勤めてから、23歳の時には東京の小学校にいくことになりました。

しかし、恵まれない人を助けるような人になりたいとの思いが強まり、医者になろうと医学校に入学します。29歳で医師免許を取り、1年間病院につとめた後、神奈川県に病院を開きました(⑥)。お金のない人からはお金をとらないような、困っている人を大事にするお医者さんでした。

ある日、小さい子ども連れの患者さんが来ました。具合が悪くてすぐに入院が必要でした。ところが、入院中わが子の面倒をみってくれる人がいないため困っていました。それを見かねた音次郎は、その子どもも預かって世話することにしました。このようにして、音次郎はけがや病気を治療するだけでなく、困って訪れる人はだれでも助けるようになりました。



やがて音次郎は病院をやめ、鎌倉保育園(⑦)という施設を作り、幼い子どもを中心に恵まれない人を世話する仕事に専念します。子どもを預かる時には家族として受け入れ、わが子と同じように扱いました。それが、音次郎の始めた保育園の大きな特徴です。





あず こ ふ もっと こま せいかつ
預かる子どもが増えるにつれ、最も困ったのは生活を
ひつよう かね
するために必要なお金でした。しかし、音次郎の熱意に
うご いたがきたいすけ いとうひろぶみ おおく
動かされた板垣退助や伊藤博文をはじめ、とても多くの
かたがた えんじょう う
方々から援助を受けることができました。

おとしろう く に ちゅうごく ちょうせん たいわん
また、音次郎はわが国だけでなく、中国、朝鮮、台湾
ふこう こ たす ちから そそ
でも不幸な子どもたちを助けるために力を注ぎました。

おとしろう いま ねんまえ さい し ふ ぼ
音次郎は今から74年前に76歳でなくなりましたが、死んだら父母の
じぶん はか お しん たの
そばに自分の墓を置いてほしいと、親せきに頼んでいたそうです。それが
ふ ぼ はか はか た
かなえられ、父母の墓のそばにお墓が建っています(⑧)。



めぐ こ そだ おとしろう く に
たくさんの恵まれない子どもたちを育てた音次郎は、国
ひょうしょう せい か せきひ おとしろう りっぱ
からも表彰されました。生家の石碑は音次郎の立派な
ぎょうせき た おとしろう な
業績をたたえて建てられたのです。音次郎が亡くなっても、
おとしろう はじ しごと こんにち ひ つ
音次郎の始めた仕事は今日まで引き継がれています。

ひと う ばしよ えら じぶん う
人は生まれてくる場所を選ぶことはできない。自分が生
まれた場所は自分が望んだところではないかもしれない。
じぶん いっしょうけんめい
しかし、自分のやりたいことを一生懸命にやっていると、
みち ひら
かならず道が開けてくるのです。

<おわり>

さたけ・おとしろう 元治元年 1864.5.10 土佐国幡多郡下田村竹島に出生
昭和15年 1940.8.16 神奈川県鎌倉市佐助にて永眠

発行：2014年5月10日（佐竹音次郎 生誕150年の日に）

社会福祉法人 栄光会（若草園創立55年記念事業・継続的研修事業実行委員会）
高知県四万十市下田2211